

2-4 学修成果の評価や卒業認定の基準

2-4-1 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

《体育学部 学位授与の方針》

体育学部では、大学・学部の教育研究上の目的、人材養成の目的に従って、定められた 124 単位以上の単位を習得し、豊かな人間性、健康・スポーツ科学に関する専門的知識と、競技スポーツ、健康運動、健康・スポーツ教育のいずれかの分野に関する実践力を身につけた学生に「学士(体育学)」もしくは「学士(健康科学)」の学位を授与する。

**体育学部 体育学科**

体育学科では、大学・学部・学科の人材養成の目的に従って、豊かな人間性を備え、国際的、全国的、地域的な各レベルの体育・スポーツ界をリードする多様な専門家の養成を目指している。

そこで、以下の資質・能力を身に付けた学生に学位「学士(体育学)」を授与する。

- 1) 健康増進、体力の向上、競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を習得すると共に、これらを実践できる力
- 2) 現代社会において果たす体育・スポーツの役割を深く理解し、コミュニケーション能力、課題探求力、問題解決力などの総合的能力
- 3) 体育・スポーツに携わる指導者に求められる、豊かな人間性、幅広い教養に根ざした公共的使命感や倫理観、協調できる社会的スキル
- 4) 習得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自身の問題解決や課題に取り組み、自ら解決することができる能力

[平成29年5月1日現在]

**体育学部 健康科学科**

健康科学科では、大学・学部・学科の人材養成の目的に従って、豊かな人間性を備え、柔道整復分野の教育研究を通じて社会に貢献ができ、また 柔道整復分野のリーダーとして活躍できる指導者・教育者の養成を目指している。

そこで、以下の資質・能力を身に付けた学生に「学士(健康科学)」の学位を授与する。

- 1) 柔道整復及び健康科学、スポーツ医科学分野に必要な知識と技能を理解しており、日々、進歩するあらゆる分野の知識を習得するための力
- 2) 医療人としてのコミュニケーション能力や他者との中で協働する力
- 3) 科学的根拠や思考を持って医療現場やスポーツ現場の諸問題に対応することができる力
- 4) 感性豊かな人間性と高い医業倫理を備え、「健康科学」を中心として、「体育学」、「スポーツ医科学」等の学際的領域で実践的技能を応用できる力
- 5) 健康科学の知識と実践を用いて健康社会の保持・増進に貢献できる力
- 6) 習得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自身の問題解決や課題に取り組み、自ら解決することができる力

[平成29年5月1日現在]

## 《次世代教育学部 学位授与の方針》

次世代教育学部では、大学・学部・学科の教育研究上の目的、人材養成の目的に従って、定められた 124 単位以上の単位を修得し、豊かな人間性、教育学・保育学・心理学・社会学などに関する専門的知識とそれらを活かす実践力、コミュニケーション力、異文化理解力を身につけた学生に「学士(次世代教育学)」の学位を授与する。

### 次世代教育学部 こども発達学科

こども発達学科では、大学・学部・学科の人材養成の目的に従って、豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力、多面的な子ども理解とその支援ができる専門性を身につけ、次世代の発展と構築に貢献する、国際的でグローバルな保育者・教育者・指導者の養成を目指している。そこで、以下の資質・能力を身につけた学生に学位「学士(次世代教育学)」を授与する。

- 1) 乳幼児期から児童期・青年期に至るまでの子どもの理解に対する発達の観点、教育的観点、心理的観点等、福祉的観点等、多面的に子どもを理解する力
- 2) 子どもや保護者・教育関係者との円滑な人間関係を築くための、コミュニケーション能力、問題解決力、倫理的思考力、情報リテラシー・数量的スキル等の力
- 3) 保育実習や教育実習の経験を踏まえ、社会人としてのルールを遵守し、自己管理能力、チームワークやリーダーシップ、倫理観等の力
- 4) 地域に開く「子育て支援実践活動」への参加体験を積み重ね、地域社会の実情に応じた「子育て支援」を推進する実践力・創造的思考力

[平成29年5月1日現在]

### 次世代教育学部 教育経営学科

教育経営学科では、大学・学部・学科の人材養成の目的に従って、豊かな人間性を備え、初等教育あるいは中等教育(英語)に関する知識・技能を修め、それらを活かす実践力、コミュニケーション力を有した次世代の教育者や指導者の養成を目指している。そこで以下の資質・能力を身につけた学生に学位「学士(次世代教育学)」を授与する。

- 1) 子どもの学習状況を把握し教科内容等を理解した上で授業を構成し実践するための基礎的基本素養
- 2) 発達等の子ども理解に基づいて、的確な学習指導や、生徒指導、学級経営を実践する力
- 3) 豊かなコミュニケーション能力を有し、子どもの未来に対する強い使命感を持ち、教師としての成長をめざし学び続ける力
- 4) 学教支援ボランティア・教育実習・教職実践演習などを通して、教育実践の中で現代の教育課題に取り組み、解決できる能力を養い、グローバル社会に対応できる総合的な実践力

[平成29年5月1日現在]

### 次世代教育学部 国際教育学科

国際教育学科では、大学・学部・学科の人材養成の目的に従って、豊かな人間性を備え、若者の自己実現、グローバルにもローカルにも貢献できる「グローバル人材」の養成、英語力のある中・高英語教員、コミュニケーション能力や問題解決力を備えた企業人、多文化環境にも適応できる日本語教員の養成を目指している。そこで、以下の資質・能力を身につけた学生に学位「学士(次世代教育学)」を授与する。

- 1) 世界中のどこでも、異なる文化的背景をもつ人々とコミュニケーションでき、世界の中で主体的に行動していくために必要な「語学力」
- 2) 文化・制度の垣根や境界を乗り越えて異なるイデオロギーや価値観を理解する「多文化理解・異文化理解力」
- 3) 日本の伝統文化を理解し、その理解をもとに自己のアイデンティティを発見し確立していく「伝統文化の理解力」
- 4) 二十一世紀の国際社会の情報・知識基盤型社会で活躍するための批判的思考・情報リテラシー等のスキル及び他者との相互理解を促進するためのコミュニケーション能力
- 5) 我々が生きる世界の社会的・政治的・文化的・学術的知識を持ち、現代社会の諸問題の創造的解決を求めてやまない探究心
- 6) 国際社会において他人と協働・協力しつつ活躍できる実践力
- 7) 習得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自ら積極的に課題に取り組み、創造的に思考しながら問題を解決していく能力

[平成29年5月1日現在]

### 《経営学部 学位授与の方針》

経営学部では、大学・学部の教育研究上の目的、人材養成の目的に従って、定められた 124 単位以上の単位を修得し、豊かな人間性、教育学・保育学・心理学・社会学などに関する専門的知識とそれらを活かす実践力、コミュニケーション力、異文化理解力を身につけた学生に「学士(経営学)」の学位を授与する。

### 経営学部 現代経営学科

現代経営学科では、大学・学部・学科の人材養成の目的に従って、豊かな人間性を備え、高い専門性と実行力を持ち、的確なマネジメントを実行できるリーダーシップ、グローバルな視点、新事業への挑戦、社会的責任を自覚した企業経営等の要請に応じることができる自律的人材の養成を目指している。

そこで、以下の資質・能力を身に付けた学生に「学士(経営学)」の学位を授与する

- 1) 豊かな人間性・幅広い教養に基づく課題提案力  
多くの社会や実際の企業課題に接することで、社会に対して疑問を持ち、課題を認識・判断でき、そこから新たな価値を創造・提案が行える論理的な思考力・伝える力を修得した課題提案力、問題解決力を身に付けている。
- 2) 異文化理解に基づくコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力  
語学力、異文化理解・共生力という切り口で異なった考え方、文化など多様性を受け入れる広い視野と許容力に基づきコミュニケーション、プレゼンテーションできる能力を身に付けている。同時に経営活動で生じる知識や情報を数量的スキル、情報リテラシーの修得に基づき活用し、論理的思考力に基づき戦略的に意思決定ができ、かつ、創造的思考力を身に付けている。
- 3) 国際人としての自覚とアイデンティティの涵養に基づく実践力と生涯学習力  
国際人・リーダーとして「人間尊重の経営」を実践するための豊かな教養力を身に付けている。また、グロー

バル化・情報化がもたらす多様な環境変化の下における高い倫理観と豊かな教養力で問題解決に向け互いに尊重しながら学び合い、協力しあう関係を構築する力を身に付けている。同時に、生涯学習を続けていく力を身に付けている。

4) 経営に対する総合的な学習経験に基づく知識の習得とそれらを活かす実践力

総合的な学習経験 「①学問知(授業から学び習得する知識)、②実践知(実際のプロジェクトに参加し、企画推進から習得する知識)、③企業知(企業人による特別講義やインターンシップ等)を通じて習得する現場の知識)、④国際知(グローバル環境から習得する知識)」を通して、この4つの「知」集積を連動させ社会人力(課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力)を身に付けている。

[平成29年5月1日現在]